

メディア関係者各位

自傷・自殺未遂の実態に関する最新の分析結果を公表

「自傷・自殺未遂レジストリ年次報告書」と「自損行為による救急搬送事案の概要資料」
過量服薬の使用薬剤や自傷・自殺未遂の原因・動機、小中高生、妊産婦の状況なども分析

平素より自殺対策において連携・協働いただき、厚く御礼申し上げます。

厚生労働大臣指定法人・一般社団法人「いのち支える自殺対策推進センター」（東京都千代田区、代表理事・清水康之／略称「JSCP」）は、昨年に引き続き世界自殺予防デー（9月10日）にあわせて、自傷・自殺未遂の実態に関する最新の分析結果を公表いたします。公表するのは、①救命救急センターにおける自傷・自殺未遂の症例登録システムである「自傷・自殺未遂レジストリ」（一般社団法人日本臨床救急医学会と協働運営）の年次報告書と、②消防庁救急搬送人員データに基づく2026年版「自損行為による救急搬送事案の概要資料」です。①の「自傷・自殺未遂レジストリ」では、昨年より調査項目をより詳細にしており、今回、その分析結果も報告しています。

自傷・自殺未遂の経験はその後の自殺の重要な危険因子の一つであり、自殺対策において自傷・自殺未遂者への対応は重要な柱となっています。そのため、自傷・自殺未遂者に関する情報を継続的に蓄積し、実態に基づく効果的な支援の方策や政策的な枠組みを検討することが急務であり、2022年に閣議決定された「自殺総合対策大綱」では、自殺未遂者に関するデータベースの構築を含む「自殺未遂者の再度の自殺企図を防ぐこと」が当面の重点施策のひとつとして掲げられています。今回の分析から得られた知見が、自傷・自殺未遂者の実態把握と支援の枠組みの構築に活用され、誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現の一助となることを期待しております。

1. 自傷・自殺未遂レジストリ 2026年報告書

自傷・自殺未遂レジストリ（JAPAN Registry of Self-harm and Suicide Attempts: JA-RSA）は、救命救急センターを対象とした自傷・自殺未遂に関する症例登録システムです。JA-RSAでは「自傷・自殺未遂者」を「自ら故意に身体損傷をもたらすような行為をおこなった者」と定義してデータを収集しており、2022年12月の登録開始から2025年末までに全国74の救命救急センターから9,168件の症例が登録されました。本報告書では、近年の自傷・自殺未遂の動向を踏まえた年代別・性別による分析や、自殺者数の増加が極めて深刻な状況にある小中高生に着目した分析、妊産婦に着目した分析など、自傷・自殺未遂のより詳細な実態を把握するための分析を行いました。また、2025年の症例登録システムの改修により定量的な分析が可能となった過量服薬に用いられた薬剤や、自傷・自殺未遂の原因・動機などの分析も行いました。

自傷・自殺未遂レジストリのデータから得られた主な知見は下記の通りです。

- ①救命救急センターを受診した自傷・自殺未遂症例は女性の割合が高く、
19歳以下では女性が男性の3倍以上、20歳代では2倍以上
- ②特に、過量服薬による自傷・自殺未遂の割合が高く、
 - ・用いられた薬剤は処方薬が80.0%、市販薬が28.5%
 - ・処方薬の過量服薬では催眠鎮静剤や抗不安剤、精神神経用剤が多く、
 - ・市販薬の過量服薬では解熱鎮痛薬やかぜ薬が多かった

問合せ：厚生労働大臣指定法人・一般社団法人 いのち支える自殺対策推進センター

広報室 press@jscp.or.jp / 03-6272-9446

③背景および医療・支援状況では、

- ・ 自傷・自殺未遂歴は「あり」が46.6%で、年代別では19歳以下が58.4%と最も高く、男女別では男性が30.4%、女性が55.3%だった
- ・ 精神科受診歴は「あり」が65.9%で、年代別では20～39歳が74.3%と最も多く、男女別では男性が49.3%、女性が74.9%だった

④小中高生では、

- ・ いずれの学齢においても女性が7～8割
- ・ 自傷・自殺未遂歴は「あり」が57.1%
- ・ 精神科受診歴は「あり」が58.0%

⑤妊産婦では、

- ・ 症例の内訳をみると、妊娠中が66.1%、産後1年以内が33.9%
- ・ 精神科受診歴は「あり」が78.0%

⑥多くの項目で、年代や性別による違いがみられた

※JA-RSAは救命救急センターを受診した自傷・自殺未遂症例のみを対象としているため、高度かつ総合的医療を必要とする症例が多く含まれている可能性があることにご留意ください。

2. 自損行為による救急搬送事案の概要資料

消防庁の救急搬送人員データは、救急活動の中で救急搬送に至った傷病者に関する情報を、消防庁が消防機関及び都道府県の協力を得て事例ごとに収集し、まとめているものです。「自損行為」とは、このデータにおける事故種別の一つで、「故意に自分自身に傷害等を加えた事故」と定義され、自殺死亡事例とともに自傷・自殺未遂事例が含まれています。2026年版「自損行為による救急搬送事案の概要資料」では、消防庁から公表されている2025年の速報値を踏まえた「自損行為」による救急搬送人員の推移と、JSCPが消防庁より提供を受けた、2016年～2024年の9年間の救急搬送人員データを用いた、自殺未遂を含めた自殺企図の最新の実態や傾向をまとめました。

この分析から得られた主な知見は下記の通りで依然として若者や女性を中心に増加傾向が顕著となっています。

①「自損行為」による搬送人員は、2019年以降増加傾向が続いている

(2025年の速報値では、1日平均120人が自損行為により救急搬送されていた)

②特に、0～19歳、20～39歳の救急搬送率が増加傾向である

③中でも、女性は男性に比べて、救急搬送率が高く、増加傾向もより顕著である

※報告書と概要資料は以下のURLからダウンロードできます。

■「自損行為による救急搬送事案の概要資料」

URL：<https://jscp.or.jp/research/report/emergency-transport-2026.html>



■「自傷・自殺未遂レジストリ年次報告書」

URL：<https://jscp.or.jp/assets/JA-RSA/annualreport2026.pdf>



【参 考】

報道にあわせて記載できる、相談先の情報をお知らせします。

◆生きるのがしんどいと感じているこども・若者向けの Web 空間で、安心して存在できるオンライン上の居場所。絵本作家のヨシタケシンスケさんが全面協力。

「かくれてしまえばいいのです」<https://kakurega.lifelink.or.jp/>

◆つらい気持ちを相談できる場所があります。

〈電話や SNS による相談窓口〉

- ・ #いのち SOS（電話相談）<https://www.lifelink.or.jp/inochisos/>
- ・ チャイルドライン（電話相談など）<https://childline.or.jp/>
- ・ 生きづらびっと（SNS 相談）<https://yorisoi-chat.jp/>
- ・ あなたのいばしょ（SNS 相談）<https://talkme.jp/>
- ・ こころのほっとチャット（SNS 相談）<https://www.npo-tms.or.jp/service/sns.html>
- ・ 10 代 20 代の女の子専用 LINE（SNS 相談）<https://page.line.me/ahl0608p?openQrModal=true>

〈相談窓口をまとめたページ〉

- ・ 厚生労働省 まもろうよこころ <https://www.mhlw.go.jp/mamorouyokokoro/>